昭和56年卒同期会

昭和56年同期会は、8月15日（土）、昼は佐竹史料館見学（13名参加）、夜はホテルメトロポリタン秋田（75名参加）での懇親会という2部構成で、開催されました。

故人への黙とうで会は始まりました。前回はコロナ禍での「還暦の祝い」を兼ねての開催でした。パーティションがある4年前とは違い、今回は心置きなく「普通」を満喫。幹事さんに感謝しつつ、でもそっちのけで楽しみました。各クラスから一人ずつの近況報告がありましたが、ほとんどBGM化してしまうような盛り上がり。

根本君の中締めの前の「一節ご披露」にもうひと盛り上がり。これからの人生は「出会い」より「別れ」が多くなる、と言います。新しい「出会い」は少ないかもしれませんが、同期との再びの「出会い」ができた会でした。円陣を組み、校歌を5番まで歌い、散会。「同期っていいもんだな」とつくづく思いました。次回は3年後を予定しております。

（嵯峨 恵 記）



昭和63年卒同期会

1月2日（金）、秋田キャッスルホテルにて昭和63年3月卒の同期会を開催。平成10年以来の開催となったが、同窓会事務局の協力とSNS活用の成果で、総勢101名が集結。恩師は船木賢咲先生、神居隆先生、ギタ・ユセフィアン先生の3名がご臨席。京都からお越しのギタ先生より「最初の教え子で思い出深い」との挨拶をいただき、開宴。

歓談中のクラス・部活での撮影会では、ステージメンバーの入れ替わり立ち代わりの登壇に終始笑顔と歓声に包まれた。校歌斉唱にて一次会を締めるも、勢いはそのままほぼ全員が別フロアの二次会へ。三次会は分散したものの、雪の秋田を旧友と存分に堪能。次回「還暦会」での再会に向け、健康と連絡の維持を誓い散会となった。

（長野 弘志 記）



昭和52年卒同期会

9月6日（日）ホテルメトロポリタン秋田にて12回目の昭和52年卒同期会を開催しました。今回は22名の県外参加者を迎えて62名の同期が集いました。司会の山添匠君の進行で幹事挨拶、物故者に黙祷の後、乾杯は長らくスペイン在住だった野島正彦君の音頭で開宴となりました。

今年は卒業して50年となり互いの近況や昔の思い出話で盛り上がったところで、入学同期の西山玲子さんの発案で秋高祭のテーマ曲「岬めぐり」を歌い、渡部明君のリードで校歌斉唱。最後は昨年米国から帰国して初参加の山本裕高君の中締めでお開きとなりましたが、話し尽きない面々は2次会会場でテーブルを囲みさらに旧交を温めました。写真集はいつものように加藤史子さんに作っていただきました。次回は2年後でいよいよ70歳を迎えますが元気な姿で再会したいと思います。

（池田 匠 記）



昭和53年卒同期会

「最近の話題は親の介護と自分の服用薬」

今回は8月14日秋田キャッスルホテルにおいて開催された。会場には恩師である川口百合子先生、柴田義弘先生をお迎えし、60人の同期生が集い半世紀近い歳月を経ても変わらぬ友情を確かめ合った。記念写真撮影後、水澤彰人氏の進行により物故者への黙とう、校歌斉唱そして亀井哲夫年次代表挨拶と進み、川口先生の乾杯のご発声をいただいた後、懐かしい学び舎での思い出や現在の活躍が語られ、終始笑顔の絶えない会となった。中でもクラス対抗近況報告合戦は圧巻であった。司会の制御もままならず、まさに奇跡の前期高齢者と思わせるパワーが発散された。

次回はいよいよ「古希祝」。今後も母校の発展と同期の健康を祈念し散会した。

（詠み人知らず）



「つどい」投稿について

❶「つどい」欄への投稿は毎回多数にのぼるため、スペースの制約からやむを得ず、原稿を短縮したり次号に回すことがあります。**原稿は概ね350字**を目途にお願いします。